

5月22日(木) 令和7年度 各市郡研究員等研修会資料
指導の重点、具現の方途、訪問指導の観点 (家庭科、技術・家庭科)

重点		観 点
指導計画の工夫・改善	1	題材において身に付けさせたい資質・能力を明確にするとともに、指導内容の系統性、発展性及び他教科との関連を踏まえた題材指導計画を作成する。 (「題材を貫く課題」や「問題を見いだし課題を設定する」場面の在り方)
	2	児童生徒の学習状況を的確に把握して、 実践的・体験的な活動、問題解決的な学習 が一層充実するよう指導計画の改善を図る。
	3	題材のねらいに即した 評価規準 や学習指導要領解説の「 指導内容、指導事項 」に沿った各単位時間の役割を明確にする。また、評価したことを 指導に生かす時間 、指導したこと(の評価)を 記録に残す時間 を明確にした指導計画にする。
	4	題材と家庭生活や社会生活との結びつきについて理解したり、生活や社会の中から課題を見つけ家庭実践したりできるよう指導計画が工夫されている。
	5	全ての内容について、教材開発・指導計画の作成がなされている。 【小学校家庭】 「A(4)」・・・家族・家庭生活についての課題と実践 【技術分野】 「D(2)」・・・双方向性のあるコンテンツのプログラミング 「D(3)」・・・計測・制御のプログラミングによって解決する活動 第3学年において、統合的な内容を扱っている。 【家庭分野】 「A(3)ア(イ)」・・・介護など高齢者との関わり方について 「C(1)ア(イ)」・・・売買契約の仕組み、消費者被害とその対応について
指導方法の工夫・改善	1	児童生徒が本時への意欲と 学ぶ必然 があり、 端的な導入 になるように工夫している。また、適切な分析をもとにした実態調査(できない要因等)及び既習内容の定着を見届ける方策をもち、児童生徒の実態に即した導入を考えている。
	2	実践的・体験的な学習を重視 し、一人一人が基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう、教えること、考えさせることを明確にするなど、指導方法を工夫する。 (児童生徒が 自らの学習を調整 し、試行錯誤できる 時間を十分に確保 する)
	3	教師が 児童生徒の学習状況を把握 し、 つまづきに応じた指導・援助 を考えている。(指導と評価の一体化)
	4	児童生徒が交流する(対話的な活動)際は、その目的や交流する視点、方法等を明確にする。
	5	「生活の営みに係る 見方・考え方 」や「技術に係る見方・考え方」に気付いたり、働かせたりするを学習活動が位置付いており、課題解決に向けて、自分の考えを構想し、思考・判断・表現する学習活動を充実する。 (解説に示されている「見方・考え方」の言葉そのものが重要なのではなく、「 見方・考え方を、本時、児童生徒がどんな言葉で表出しているか 」を教師が捉える)
	6	教師が定着が不十分な児童・生徒に対して見届ける方策をもち、児童・生徒のよさを認め励ます授業の終末を考えている。また、児童・生徒が 学ぶ意義や喜び、自己の成長を実感できる振り返りや評価活動 を行っている。
	7	安全指導と安全管理に努めている。
学習集団の育成・学習環境の整備	1	基本的な学習姿勢と家庭科、技術・家庭科としての学び方(学習の準備や片付け、用具や工具の安全な扱い)が身に付くよう計画的、継続的に指導している。
	2	自分が学んだことや身に付けたことを言葉や動作、設計図、計画表、作品等を使って豊かに表現できるよう計画的、継続的な指導を行っている。(家庭、技術・家庭科における言語活動の充実、見方・考え方を働かせて)
	3	児童生徒の作業動線等を考慮し、 安全で効率のよい実習 ができる 学習環境 となっている。